

# 1 東御市における地方創生の必要（方向）性

## (1) はじめに

○近年、人口減少や高齢化が進む中で、地域の持続可能性を高める「地方創生」は東御市にとっても喫緊の課題です。  
本市は、豊かな自然、温泉、ワインと食など、他地域にはない多様な地域資源に恵まれています。これらを活かした交流・滞在の受け皿が十分とは言えません。

## (2) 現状と課題

○本市には個性豊かなワイナリー、湯の丸高原、海野宿をはじめとした魅力的な地域資源を有しており、年間を通じて観光客は訪れているものの、それぞれの観光資源が有機的に繋がっていないほか、宿泊をはじめとした滞在型・体験型観光に対応可能な施設が不足しています。  
そのため、積極的なインバウンド誘客が図れないほか、観光来訪が日帰りにとどまる等、地域資源が「訪れて・触れて・滞在する」場として十分整備されておらず、経済波及効果が地域全体に十分浸透していないという課題があります。また、地域の文化や暮らしにふれる交流の機会が限定的であり、都市部との関係人口の形成や移住促進にもながりにくい状況です。

## (3) 課題の要因と解決策

### ① 宿泊施設の不足と質の課題

宿泊施設の数・立地・多様性が限定的で、団体旅行や中長期滞在に対応できていない。結果、観光が日帰り中心にとどまり、地域内での経済循環が生まれにくい。

解決策 → **多様なニーズに応える宿泊環境を整備（家族・団体・ワーケーターなど）**

### ② 地域との交流の場が不在

○「訪れるだけ」「泊まるだけ」では、地域住民との接点がなく、関係人口の育成につながらない。

○外部人材（観光客・移住希望者・起業家など）と地域をつなぐ交流インフラが不足。

解決策 → **住民と観光客が自然に出会う「場」をつくる（体験・イベント・食）**

### ③ 地域経済への波及が限定的

○宿泊・食・体験などを統合的に提供できず、地域産業の活性化や所得向上に直結しにくい。

○民間事業者が観光・交流事業に参入しづらい環境。

解決策 → **地元食材や人材を活用したサービスによる経済の地産地消**

1

# 2 「新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）」の概要

## ◆ 制度概要 （抜粋）

- 地方公共団体の **自主性と創意工夫に基づいた**、地方創生に資する **地域の独自の取組を支援**  
※ 地方版総合戦略に基づき、目指す将来像及び課題の設定等、KPI設定の適切性に加え、自立性、地域の多様な主体の参画等の要素を有する事業を支援。
- ソフト+ハードや分野間連携の事業を一体的に支援**するとともに、国による伴走支援を強化  
・申請の効率化を図る観点から、ハード・ソフトが一体となった事業も含め、一本の申請で受付。
- 事業の検討・実施・検証の各段階において、**地域の多様な主体が参画する仕組みの構築**  
・産官学金労言の参画による事業の進捗状況・効果測定を実施し、効果検証及び評価結果・改善策の公表を義務化する。

	事業計画期間	交付上限額・補助率
ソフト事業	原則3か年度以内 (最長5か年度)	1自治体当たり国費 市区町村:10億円/年度 補助率:1/2
拠点整備事業	原則3か年度以内 (最長5か年度)	1自治体当たり国費 市区町村:10億円/年度 補助率:1/2

# 3 施設建設場所の選定

宿泊交流拠点施設の建設場所選定にあたっては、景観、敷地面積（広大かつ未利用地）等の条件から市内2カ所を候補地として、ワインに関連する①教育・研究、②産業振興・雇用創出、③交流・体験、④宿泊・ウェルネス、⑤物販・飲食、⑥情報発信・案内などの機能を導入することについて検証を行いました。

結果、数多くのワイン関連資源と本市最大の観光資源湯の丸高原が身近にあり、東部湯の丸ICに近く、景観が良い**柵津地区（横堰）の民有地を「滞在をゆっくり楽しむ観光」に適した有望候補地に選定しました。**

当該地は、県道東御孺恋線に接しており、市内の主なワイナリーから車で10～20分、湯の丸高原から20分程度と、本市が推進するワインとスポーツが連携したツーリズム拠点としての適地です。また、東御市一帯を見渡せる眺望を有する場所です。



出典: 国土交通省国土地理院

## 4 宿泊交流拠点施設のコンセプト

### 施設のコンセプトとターゲット

本市を取り巻く環境(内部環境・外部環境※)を踏まえ、観光の軸であるワイン、ウェルネス、スポーツの3要素に着目し、施設の方性とターゲットを導くと次のようになります。

#### 東御の風土を五感で味わう ワインがつなぐ交流の丘



四季折々の美しい丘陵風景に包まれて、  
東御を巡って、食を味わい、縁を楽しむ。

市内外のワインファン、スポーツに関心のある方等を対象にした本施設で行われる様々なイベントを通じ、市外から本施設を訪れる方々と市民の方々の間の様々な形での活発な交流が期待されます。また、市外からの観光客による観光施設や史跡への訪問、農業体験等を通じた本市の広い地域の方々との交流も期待されます。さらに、この施設を訪れるトップアスリートとの交流を通じ、スポーツをしている市内の小中学生のモチベーションや技術の向上も期待されます。

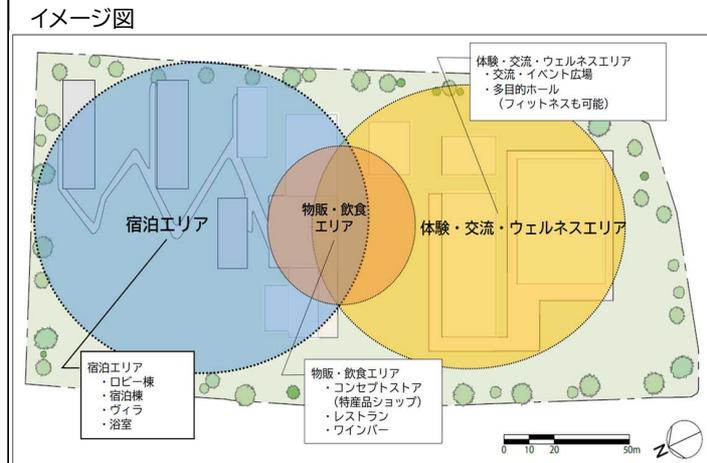
※ 内部環境・外部環境は基本構想の3ページ以降を対象にしています。



3

## 5 事業の概要

内容	宿泊施設及び交流拠点施設の整備	施設の設定場所	祢津地区 (横堰)
事業計画期間	R7-R9年度 ※本事業の開始時期は、「第2世代交付金事業」として国から採択を受けた年度から3か年の予定です。	期間中の総事業費	2,500,000千円 (予定)
目的 (効果)	東御市には、多彩で魅力ある観光資源が存在していますが、現在、宿泊施設不足等により、観光客の多くが日帰りでの訪問に留まり、観光消費額の伸び悩みの一因となっています。この現状を踏まえ、宿泊交流拠点施設の整備を通じて、地域内の観光地をめぐる滞在型観光の促進を目指しています。この施設を核に、ワイン・ツーリズムや高地トレーニングといった特色ある資源を滞在型・体験型観光として発信することで、交流人口の拡大と地域の魅力発信を図ります。あわせて、地域の歴史・文化に触れる機会の創出から市民と来訪者との交流を深め、市民が郷土への誇りを育む契機とします。これらの取り組みを通じて、地方創生の流れをさらに深化させ、持続可能で魅力ある地域社会の実現を目指します。		
事業概要・主な経費	<p>【事業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宿泊交流拠点の主な機能と施設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宿泊機能: 客室(30~50室)、温浴施設、メインラウンジ</li> <li>・ 飲食機能: レストラン 等</li> <li>・ 体験・交流機能: 交流・イベント広場 等</li> <li>・ ソフト事業(着地型観光商品の企画・試行 等)</li> </ul> </li> </ul> <p>【事業経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 撤去費及び用地造成費(用地取得費除く) 100,000千円</li> <li>○ 設計、施設工事 等 2,400,000千円</li> </ul> <p>※ DBO方式を活用したスキームで事業を推進します。</p> <p>設計・建設・運営、維持管理を一体的に民間事業者が担う手法で、効率的・持続可能な事業の実現を図ります。</p>		
財源	<p>・ 新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金) 補助率1/2 上限10億円</p> <p>・ 一般補助施設整備等事業債(まち・ひと・しごと創生交付金事業) 充当率90% 交付税算入率30% 等</p>		



4